年度末報告書（実行団体）

● 提　出　日　：　2022 年　4 月　14 日
● 事　業　名　：　「一人も取り残さない」ための包括的学習支援展開事業
　　― 拠点型・アウトリーチ型・オンライン型学習支援を組み合わせて ―
● 資金分配団体　：　公益財団法人日本国際交流センター
● 実 行 団 体　：　社会福祉法人さぽうとにじゅういち
● 新型コロナウイルス対応緊急支援助成（通常枠での追加助成）の有無　：　☐有　☑無

① 実績値

【資金支援】

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況＊
1．（拠点型支援） 目黒教室で学習支援を実施する	実施回数、受講者数、継続率	①年 44 回/9 人 （新規 2 人、継続 7 人）/維持 ②年 50 回/10 人 （新規 2 人、継続 8 人）/維持 ③年 50 回/10 人 （新規 2 人、継続 8 人）/維持	①2020 年度末 ②2021 年度末 ③2022 年度末 （事業終了時）	2021 年度： 50 回、9 人（新規 1 人、継続 8 人）、延べ 192 人（3.84 人/回）、継続率 100％	2
1．（拠点型支援） 錦糸町教室で学習支援を	実施回数、受講者数、	①年 35 回/5 人 （新規 2 人、継続 3 人）/維持	①2020 年度末 ②2021 年度末	2021 年度：52 回、9 人（新規 2 人、継続 7 人）、延べ 122 人	2

実施する	継続率	②年 50 回/10 人 （新規 5 人、継続 5 人）/維持 ③年 50 回/10 人 （新規 2 人、継続 8 人）/維持	③2022 年度末 （事業終了時）	（2.34 人/回）、継続率 100％	
１．（拠点型支援） 冬期休暇期間集中学習支援を実施する	実施回数、受講者数、継続率	①年 7 回/30 人/100% ②年 7 回/30 人 （新規 5 人、継続 25 人）/維持 ③年 7 回/30 人 （新規 5 人、継続 25 人）/維持	①2020 年度末 （事業開始 1 年後） ②2021 年度末 ③2022 年度末 （事業終了時）	6 回（2021 年 12 月 29 日～22 年 1 月 7 日）、3 人（新規 0 人、継続 3 人）、継続率 100％	3
２．（拠点型支援） 行徳教室で学習支援を実施する	実施回数、受講者数、継続率	①年 31 回/9 人/100% ②年 50 回/10 人 （新規 1 人、継続 9 人）/維持 ③年 50 回/10 人 （新規 1 人、継続 9 人）/維持	①2020 年度末 （事業開始 1 年後） ②2021 年度末 ③2022 年度末 （事業終了時）	2021 年度：39 回、10 人（新規 1 人、継続 9 人）、延べ 249 人（6.38 人/回）、継続率 100％	3
３．（アウトリーチ型支援） アウトリーチ型学習支援を実施する	新規アウトリーチ先、実施回数、受講者数、継続率	①1 箇所/各所･週 1 回/2 人/100％ ②5 箇所/週 1 回/10 人/100％ ③10 箇所/週 1 回/10 人/100％	①2020 年度末 （事業開始 1 年後） ②2021 年度末 ③2022 年度末 （事業終了時）	2 か所 ・1 か所目（東京都、2021 年 11 月～3 月）：日本語学習支援 46 回（対面型＋オンライン型）、受講者 1 名、継続率 100％ ・2 カ所目（埼玉県、2022 年 1 月～3 月）：日本語支援 50 回（対面型のみ）、受講者 5 名、継続率 100％。学校教科支援	3

				30 回（対面型のみ）、受講者 2 名、継続率 100%	
４．（オンライン型支援） オンライン型学習支援を実施する	実施回数、受講者数、継続率	①年 341 回/60 人/100% ②年 300 回/60 人 （新規 10 人、継続 50 人）/維持 ③年 300 回/60 人 （新規 10 人、継続 50 人）/維持	①2020 年度末 （事業開始 1 年後） ②2021 年度末 ③2022 年度末 （事業終了時）	2021 年度：360 回、84 人（新規 20 人、継続 64 人）、延べ 3794 人（10.53 人/回）、継続率 100%	1
５．（拠点型・アウトリーチ型・オンライン型支援） 大学生学習支援者を増やす	参加者数	①25 人 ②25 人（新規 15 人、継続 10 人） ③25 人（新規 15 人、継続 10 人）	①2020 年度末 （事業開始 1 年後） ②2021 年度末 ③2022 年度末 （事業終了時）	2021 年度：43 人（新規 33 人、継続 10 人）	1
５．（拠点型・アウトリーチ型・オンライン型支援） 学習支援者勉強会を実施する	勉強会開催数、参加者数	年 2 回/各 20 人	各年度末	3 回、平均 35 人（各回 30 人、39 人、38 人）	1
５．（拠点型・アウトリーチ型・オンライン型支援） 学習支援「開始者」向け研修１（団体概要の理解）を実施する	研修会開催数、参加者数	月 1～2 回以上／年間 40 人以上	各年度末	2021 年度：40 回（グループ 20 回、個別 20 回）、合計 90 人	1
５．（拠点型・アウトリーチ型・オンライン型支援）	研修会開催数、参加者	年 4 回／各回 10 人以上	各年度末	3 回、平均 25 名（各回 30 人、29 人、15 人）	3

学習支援「開始者」向け研修２（スキルアップ）を実施する	数				
５．（拠点型・アウトリーチ型・オンライン型支援）「アセッサー」向け勉強会・研修会（DLA）を実施する	勉強会・研修会開催数、参加者数	年 5 回／各回 15 人以上	各年度末	今年度実施なし	3
６．拠点型・アウトリーチ型・オンライン型統合学習支援の成果を発表する	①報告書の作成、配布 ②ホームページ掲載する報告書のダウンロード数 ③シンポジウムの実施及び参加者数	①300 冊以上配布 ②100 件以上 ③1 回開催／参加者 50 人以上	2022 年度末（事業終了時）	サイトの準備完了	4
７．ホームページの特設サイトを活用し、当該事業や外国ルーツ青少年について等の情報発信を行う	コンテンツの配信回数	1 件/月	サイト公開から 2022 年度末の事業終了時	2022 年 3 月特設サイト公開済み 3 件（3 月）	2

＊進捗状況：1 計画より進んでいる 、2 計画どおり進んでいる 、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
2.概ね達成の見込み
2.アウトカムの状況
A：変更項目 ☑変更なし　☐短期アウトカムの内容　☐短期アウトカムの表現　☐短期アウトカムの指標　☐アウトカムの目標値
3. 活動に関する報告
・子どもと家庭、学校をつなぐ包括的学習支援 行徳教室は、ムスリムの小中高生だけを対象とする日本語教室であるが、教室をスタートさせてから1年9か月たち、彼らと彼ら家族の日本への定着度が著しく低いことがわかってきた。その中で、彼らにとっては「学校」という場所にまずは上手につながる必要があることは明らかであった。教室の継続開催、教室活動で様々な学習の工夫をこらす中で、彼らとの信頼関係は構築されつつあると言える。 そんな中、ある家庭の中学生が父親との関係が悪化し、学校に訴えるという事態が起こった。そのときに、行徳教室のコーディネーターに学校より速やかに共有がなされ、結果的には自宅訪問等、中学校の先生方と行動を共にし、最終的には父、娘共にある程度納得をして、帰宅することとなった。子どもと家庭、学校をつなぎ、包括的学習支援を志す本事業の意義を伝えるエピソードであるととらえている。 ・新規参加者（支援者）の継続的な広がりによる、「一人も取り残さないための」支援の輪の拡大 ホームページやSNSを通じた継続的な発信、また外部での団体活動の紹介等を通じて、今年度の新規参加者は73名（大学生を含む）にのぼり、参加くださる方が継続的にいることから拠点型・オンライン型の学習支援は滞りなくできている。また、アウトリーチ型において急遽対応が必要となったケースにおいても、迅速な人員配置が可能となっている。今年度は、高洲地域の他、2か所への学習支援を実現でき、学習支援の必要性がなおも高いことから短期間で終わらせることなく、オンライン型に支援の形を変更する等により、来年度においても継続的な支援を予定している。なお、支援者のスキルアップなどを目指し、中国残留邦人、ミャンマー、アフガニスタンといったテーマ型勉強会と、支援開始者向けの研修会をそれぞれ3回ずつ開催し、当初の目標値を上回る参加を得ることができた。 ・細く長い関係の継続による、適切な支援の提供 学習支援室の通学生の中には、高校へ入学するタイミングで学習支援室での受講をストップする学生も少なからずいるが、団体としては常

に門戸を開き、支援が必要な時にはまた相談しやすい関係づくりを心掛けている。高校入学と同時に学習支援室での勉強をやめてしまった学生からは、卒業後の進路を考える時期に連絡があったことから通学が再開し、受験に向けた準備を進めている。また、大学受験がうまくいかず既卒生となった学生 2 名は、夏休みから学習支援室参加（拠点、オンライン合わせて）を再開、定期的な進路相談により、二人とも志望校への合格が決まった。世代を超えて、以前の通学生の兄弟が子どもを連れて学習支援の相談に来るなど、細く長い関係の構築が維持できている。

・進路相談や受験準備への対応

上記にも記した通り、今年度も高校卒業後の進路や、大学受験への準備に関する相談が多く寄せられ、一人一人の必要に応えることができるよう学習支援を行ってきた。また、高校受験生については、冬期休暇期間を利用して全 6 回の学習支援を行った。コロナ禍であることから人数を抑え、かつ、必要度の高い高校受験生の支援に集中するため、中学 3 年生（3 名）のみを対象とすることに方針を転換した。結果として、受講者数については当初予定よりも大幅に減少したものの、参加した 3 名については志望校への合格が決まり、適切な支援ができたと考える。

・オンライン型学習支援の他地域への展開

2020 年 4 月より開始しているオンライン型学習支援の取組が一定の実績を残していることから、他地域で活動する NPO 団体や地域の日本語教室等からの問い合わせが複数あり、当団体の取組を一つのロールモデルとして活用してもらうべく、情報提供を積極的に行っている。また、他の助成金事業とはなるが、SYDRIS 事業における当団体の取組が評価されたことから、2022 年 2 月からは群馬県館林地域でのオンライン型学習支援をスタートしており、これまでに実施してきたオンライン型学習支援での知識・経験をもとに事業内容を組み立て、遂行している。SYDRIS 事業に留まることなく、他事業を通しても、支援の手が届きにくかった外国人コミュニティへのアプローチができていると考える。

・評価及び情報発信

アセッサー向けの勉強会・研修会については、コロナ禍に加えて、世界的情勢（ミャンマー、アフガニスタン、ウクライナ）の大きな変化により、団体として支援の対応が迫られる緊急度の高いケースが複数発生した。こうした状況・環境変化を受けて、直接的な支援が必要となる人々への対応を優先する必要があり、勉強会への対応のための時間が十分に確保できなかった。また、DLA の実施においては登壇予定だった講師の職場変更等の事情によりプログラム等を再検討する必要があったため、2022 年度上旬にて実施する計画にて進めている。な

お、最終年度においてはアセスメントを強化すべく関連活動のプログラムの精査を図る。 情報・成果発信に向けた特設ページの準備ができ、2022 年 3 月に公開した。業者設定等により当初計画より遅れているものの、サイト公開に合わせて 3 件記事を配信している。（サイト URL　https://support21.or.jp/people/）
6. 新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点
・外国ルーツ青少年に対する学習支援は、早期より拠点型（対面型）の活動を縮小してオンライン型学習を中心に実施してきたため、受講者の学びの継続には貢献できていると考える。 ・自宅の IT 環境が整っていなかったり、勉強する環境が整っていなかったりする受講者には、拠点型（対面型）、アウトリーチ型支援を継続実施しているが、感染を最大限防ぐために、教室参加時の検温や手洗い、マスクの着用、アクリル板の設置、密にならない教室作り等の工夫をこらして実施している。

③　広報に関する報告

1.　シンボルマークの使用状況
☑自団体のウェブサイトで表示している　　☐広報制作物に表示している ☐報告書に表示している　☐イベント実施時に表示している　☐その他 →「その他」を選択した場合は記載してください（自由記述）：
2.　広報
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB 等） ・2022 年 3 月 31 日に公開した特設サイトにおいて、当該事業に関することや、外国ルーツ青少年の声・支援者の想いが紹介されるページを制作し、定期的に発信していく。 https://support21.or.jp/people/

2.広報制作物等

・当団体のニュースレター（2021 年 12 月発行）：会員、寄付者、企業、関係団体等に 700 部発送。
https://support21.or.jp/wp/wp-content/uploads/2021/12/83bd9f23b9f32ae52239d4476be653eb.pdf
※3 ページ目に当該事業のことを紹介している

3.報告書等

当団体の 2021 年度事業報告書

※2022 年 6 月頃に当団体のホームページに公開予定である

4.イベント開催等（シンポジウム、フォーラム等）

特になし

④規程類の整備に関する報告

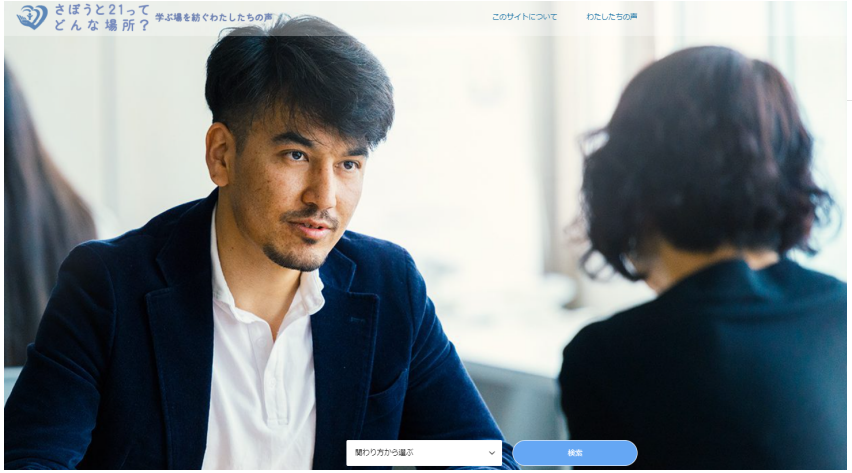
1.　事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。
☑完了　　☐整備中
2.　整備が完了した規程類を web サイト上で広く一般公開していますか。
☐全て公開した　☐一部未公開　☑未公開 →「一部未公開」「未公開」を選択した場合の理由と公開予定日： 本事業用の専用サイト（特設サイト）に掲載する予定で進めていたが、当該サイトの目的、内容等からも少し趣が異なると考え、どこに掲載すべきか検討段階である。2022 年度上期中には公開予定で進めていきたい。
3.　変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。

□はい　　□いいえ　※変更が生じた規定類はなく、該当するものはなかったため未選択とする →「いいえ」を選択した場合の理由：

⑤ガバナンス・コンプライアンスに関する報告

1.　社員総会、理事会、評議会は定款の定める通りに開催されていますか。
☑はい　　□いいえ →「いいえ」を選択した場合の理由：
2.　内部通報制度は整備されていますか。
☑はい　　□いいえ →「はい」の場合の設置方法（複数選択可）：☑内部に窓口を設置　　□外部に窓口を設置　　□ JANPIA の窓口を利用
3.　利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。
☑はい　　□いいえ →「いいえ」を選択した場合の理由：
4.　関連する規程の定めどおり情報公開を行っていますか
☑はい　　□いいえ →「いいえ」を選択した場合の理由：
5.　コンプライアンス委員会は定期的に開催されていますか。
□はい　　☑いいえ →「いいえ」を選択した場合の理由： コンプライアンス委員会の定期開催は行っていないが、月次にて理事長、事務局長が同席するミーティングを行っており、都度コンプライアンスについての確認、気にかかる事案については必要に応じて協議する時間が設けられている。
6.　報告年度の内部監査又は外部監査を実施予定ですか。（実施済みの場合含む）
□内部監査を実施　　☑外部監査を実施　　□実施する予定がない →「実施する予定がない」を選択した場合の理由：

添付資料

活動の写真

●新しく開設した特設サイト「さぽうと２１ってどんな場所？～学びの場を紡ぐわたしたちの声～」